



図2 交尾中.

2017年5月11日に加東市上久米でトンボの調査のために訪れたときに発見した。ここの農業用ため池でその堰堤に棲息していた。その際蜘蛛の巣にかかった1♂を採集した(図1)。翌12日にも訪れ13♂1♀を確認、また1ペアの交尾も観察した(図2)。

この確認において兵庫県内でキバネツノトンボの棲息地は4カ所になった。

前回の報告地3ヶ所は本年(2017)も棲息を確認した。

○参考文献

- 兵庫県自然保護協会, 1997. 兵庫の野生生物 絶滅が心配されている動物たち. 神戸新聞総合出版センター
 兵庫県, 2003. 兵庫県版レッドデータブック 2003. 兵庫県民生活部環境局自然環境保全課
 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類). 財団法人ひょうご環境創造協会
 東輝弥, 2014. キバネツノトンボの棲息地. きべりはむし, 37(1): 39-40.

(Teruya AZUMA 兵庫県高砂市)

兵庫県芦屋市におけるキマダラカメムシの記録

長田庸平

キマダラカメムシ *Erthesina fullo* は南方系のカメムシで、近年国内では分布拡大をしている外来種である。近畿地方では、2005年に初めて京都府八幡市や大阪府枚方市で発生が確認され(吉鶴・矢崎, 2005), その後は大阪府茨木市でも記録された(谷角, 2008)。兵庫県では2008年にたつの市で記録され(佐藤, 2008), 2012年には尼崎市でも確認された(夏秋, 2012)。また、兵庫県伊丹市でも普通に見られるようになった(長島, 2016)。筆者は、これまで記録がないと思われる兵庫県芦屋市で本種を目撃・撮影した。



1ex (写真), 兵庫県芦屋市山芦屋町, 10. VI. 2017. 筆者撮影

この日は、山芦屋町の住宅地を流れる芦屋川沿いのコンクリートの壁に静止している本種を確認し、撮影を行った。芦屋川沿いには、本種の寄主であるソメイヨシノが植栽されており、ここで発生していると思われる。

近年分布拡大している本種の兵庫県南東部における記録の一例として、報告する。大阪府や兵庫県での分布拡大の状況より、京阪神でも広く分布拡大している可能性があり、今後の動向には注意していきたい。

兵庫県における本種の記録に関して、伊丹市昆虫館の長島聖大氏からご教示いただいた。お礼申し上げます。

○引用文献

- 長島聖大, 2016. -伊丹に定着- キマダラカメムシ. いたこんニュース第26号, 13(2): 4.
 夏秋 優, 2012. 兵庫県尼崎市でのキマダラカメムシの記録. 大昆 Crude, 56: 41.
 佐藤邦夫, 2008. キマダラカメムシを兵庫県で採集. 月刊むし, 454: 30-31.
 谷角素彦, 2008. キマダラカメムシを大阪府茨木市で採集. 月刊むし, 454: 30.
 吉鶴靖則・矢崎充彦, 2005. キマダラカメムシを関西地方で確認. 月刊むし, 418: 25-26.

(Yohei OSADA 大阪市立自然史博物館)

淡路島初記録となるベニトンボを採集

稲畑憲昭

筆者は、これまで淡路島から記録のなかったベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) を採集しているので報告する(図1)。青木(2017)によれば、2016年に神戸市から兵庫県初記録となる個体が得られており、今回採集した個体が県二例目となる。神戸市の記録も近々公表される予定と伺っている(青木, 私信)。



図1 1♂, 兵庫県淡路市岩屋, 2017. VII. 9. 筆者採集.



図2 長谷川上流のため池.

場所は、岩屋港に流入する長谷川上流のため池である(図2)。ため池の縁から、水面に倒れて張り出した枯れ枝先端に静止している個体を採集した。周辺も探索したが、他の個体は発見できなかった。9月にも当地を訪れ、本種を探したが見つけれなかった。仮に四国から侵入したとすると、既に淡路島全域に生息している可能性は高いと思われる、島内での分布状況を把握することが望まれる。

最後に、兵庫県の記録の有無を御教示くださった青木典司氏に深謝申し上げる。また、標本は人と自然の博物館に寄贈する予定である。

○参考文献

青木典司, 2017. 兵庫県とその近隣のトンボたちリスト. ベニトンボ, 神戸のトンボ. (<http://www.odonata.jp/01live/Libellulidae/Trithemis/aurora/index.html>) (2017年10月15日アクセス)

(Noriaki INAHATA 京都府京都市)

南あわじ市でスナアカネ, 神戸市中央区でオナガアカネを確認

八木 剛・池田 大

わが国ではいずれも偶産とされる2種のアカネ属(*Sympetrum*)のトンボを兵庫県内で確認したので、記録しておく。

1. スナアカネ *Sympetrum fonscolombii*

2017年9月9日 1♂ 兵庫県南あわじ市阿万吹上町 吹上浜(図1)



図1 南あわじ市で捕獲されたスナアカネ.



図2 スナアカネが捕獲された南あわじ市吹上浜.

国立淡路青少年交流の家主催事業「AWAJI むしむしキャンプ」における99名の参加者の一人(成人男性)が採集した個体を、池田と八木が確認した。採集者によると、同種と思われる別個体も発見したが捕獲できなかったとのことであった。砂浜の後背草地にいたという(図2)。当日の天候は晴れ。他のアカネ属は見られず、多数のウスバキトンボと、シオカラトンボ、ギンヤンマ、アオモンイトトンボが、キャンプ参加者によって捕獲されていた。

2. オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster*

2017年10月5日 1♂ 兵庫県神戸市中央区北長狭通4丁目 神戸市立神戸幼稚園内(図3)

園庭に植栽されたソメイヨシノの、高さ3.5m程度の枝先に静止していた個体を、八木が捕獲した。虫探しをしていた65名の園児と教員らは本個体の存在に気づいていなかった。幼稚園の周辺は官公庁や高層住宅が建ち